

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月10日

【四半期会計期間】 第106期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）

【会社名】 株式会社 鹿児島銀行

【英訳名】 THE KAGOSHIMA BANK,LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 上村 基宏

【本店の所在の場所】 鹿児島県鹿児島市金生町6番6号

【電話番号】 099(225)3111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総合企画部長 野崎 満雄

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋三丁目15番2号 株式会社鹿児島銀行 東京事務所

【電話番号】 03(3272)3190

【事務連絡者氏名】 総合企画部東京事務所長 上村 聡

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）
証券会員制法人 福岡証券取引所
（福岡市中央区天神二丁目14番2号）
株式会社鹿児島銀行 宮崎支店
（宮崎市広島二丁目12番14号）
株式会社鹿児島銀行 東京支店
（東京都中央区日本橋三丁目15番2号）

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成24年度 第3四半期連結 累計期間	平成25年度 第3四半期連結 累計期間	平成24年度
		(自 平成24年 4月1日 至 平成24年 12月31日)	(自 平成25年 4月1日 至 平成25年 12月31日)	(自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日)
経常収益	百万円	59,204	61,383	78,362
経常利益	百万円	12,311	14,549	14,126
四半期純利益	百万円	6,747	8,840	
当期純利益	百万円			7,786
四半期包括利益	百万円	9,054	8,179	
包括利益	百万円			24,131
純資産額	百万円	271,737	293,081	286,811
総資産額	百万円	3,683,907	3,947,801	3,666,804
1株当たり 四半期純利益金額	円	32.14	42.12	
1株当たり 当期純利益金額	円			37.10
潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額	円			
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	円			
自己資本比率	%	7.1	7.1	7.5

		平成24年度 第3四半期連結 会計期間	平成25年度 第3四半期連結 会計期間
		(自 平成24年 10月1日 至 平成24年 12月31日)	(自 平成25年 10月1日 至 平成25年 12月31日)
1株当たり 四半期純利益金額	円	20.44	14.95

(注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。

4. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行グループ(当行及び当行の関係会社)が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

なお、非連結子会社のケイエム・リーシング有限会社は平成25年8月30日に解散を決議し、現在清算手続き中であり、

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスク内容についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）のわが国経済は、金融緩和を背景として個人消費や投資関連が持ち直し、雇用情勢や大企業を中心とした企業収益が改善するなど緩やかな回復傾向がみられました。

地元経済におきましては、雇用情勢や観光関連は改善が続いておりましたが、夏場以降にかけては足踏みとなりました。一方、投資関連、生産活動、個人消費は持ち直しの動きが継続しており全体として緩やかに改善しました。

このような金融経済環境のもと、当行グループの当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

経営成績

連結ベースの経常収益は、資金運用収益が貸出金利息の減少等により8億55百万円減少したものの、その他経常収益が株式等売却益の増加等により22億61百万円、その他業務収益が国債等債券売却益の増加等により5億10百万円それぞれ増加したことなどから、前第3四半期連結累計期間に比べ21億78百万円増加して613億83百万円となりました。

一方、経常費用は、その他業務費用が国債等債券売却損の増加等により13億88百万円増加したものの、その他経常費用が株式等償却及び株式等売却損の減少等により9億56百万円、営業経費が人件費の減少等により4億32百万円それぞれ減少したことなどから、前第3四半期連結累計期間に比べ59百万円減少して468億33百万円となりました。

この結果、経常利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ22億38百万円増加して145億49百万円となりました。

四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ20億92百万円増加して88億40百万円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

a. 銀行業

経常収益は、株式等売却益及び国債等債券売却益の増加等により前第3四半期連結累計期間に比べ21億10百万円増加して515億14百万円となり、経常費用は国債等債券売却損の増加等により前第3四半期連結累計期間に比べ37百万円増加して381億79百万円となりました。この結果、セグメント利益は前第3四半期連結累計期間に比べ20億72百万円増加して133億35百万円となりました。

b. リース業

経常収益は、リース売上高の減少等により前第3四半期連結累計期間に比べ27百万円減少して96億53百万円となり、経常費用はリース原価の減少等により前第3四半期連結累計期間に比べ98百万円減少して90億29百万円となりました。この結果、セグメント利益は前第3四半期連結累計期間に比べ70百万円増加して6億24百万円となりました。

c. その他

銀行業、リース業を除くその他の経常収益は、前第3四半期連結累計期間に比べ4百万円減少して15億89百万円となり、経常費用は、前第3四半期連結累計期間に比べ97百万円減少して9億63百万円となりました。この結果、セグメント利益は前第3四半期連結累計期間に比べ92百万円増加して6億26百万円となりました。

財政状態

預金は、個人預金及び法人預金の増加等により前連結会計年度末に比べ956億84百万円増加して3兆2,404億82百万円となりました。また、譲渡性預金は、公金預金の増加等により前連結会計年度末に比べ1,218億56百万円増加して1,907億23百万円となりました。

貸出金は、一般向貸出金の増加等により前連結会計年度末に比べ1,216億39百万円増加して2兆3,939億63百万円となりました。

また、有価証券は、国債の減少等により前連結会計年度末に比べ114億6百万円減少して1兆1,490億38百万円となりました。

純資産は、四半期純利益計上に伴う利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ62億70百万円増加して2,930億81百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、国際業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ1億70百万円増加したものの、国内業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ9億43百万円減少したことから、合計でも7億72百万円減少して340億31百万円となりました。

役務取引等収支は、国内業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ2億38百万円増加したことから、合計でも2億36百万円増加して66億49百万円となりました。

また、その他業務収支は、国内業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ6億71百万円、国際業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ2億7百万円それぞれ減少したことから、合計でも8億78百万円減少して33億31百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	34,468	336		34,804
	当第3四半期連結累計期間	33,524	506		34,031
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	36,074	441	4	36,511
	当第3四半期連結累計期間	34,971	698	14	35,655
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	1,606	105	4	1,707
	当第3四半期連結累計期間	1,446	191	14	1,624
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	6,376	36		6,412
	当第3四半期連結累計期間	6,614	34		6,649
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	8,492	52		8,544
	当第3四半期連結累計期間	8,749	57		8,807
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,116	15		2,132
	当第3四半期連結累計期間	2,134	23		2,158
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	4,095	113		4,209
	当第3四半期連結累計期間	3,424	93		3,331
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	12,307	113		12,421
	当第3四半期連結累計期間	12,711	220		12,932
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	8,212			8,212
	当第3四半期連結累計期間	9,287	313		9,600

(注) 1. 「国内業務部門」は当行及び連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

3. 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間5百万円、当第3四半期連結累計期間3百万円)を控除して表示しております。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、国内業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ2億56百万円増加したことから、合計でも2億62百万円増加して88億7百万円となりました。

また、役務取引等費用は、国内業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ18百万円、国際業務部門が前第3四半期連結累計期間に比べ7百万円それぞれ増加したことから、合計でも25百万円増加して21億58百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	8,492	52	8,544
	当第3四半期連結累計期間	8,749	57	8,807
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	2,026		2,026
	当第3四半期連結累計期間	2,132		2,132
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	2,630	44	2,675
	当第3四半期連結累計期間	2,619	48	2,668
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	574		574
	当第3四半期連結累計期間	668		668
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	390		390
	当第3四半期連結累計期間	341		341
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	26		26
	当第3四半期連結累計期間	27		27
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	457	7	465
	当第3四半期連結累計期間	453	8	462
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,116	15	2,132
	当第3四半期連結累計期間	2,134	23	2,158
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	381	15	396
	当第3四半期連結累計期間	374	22	397

(注) 「国内業務部門」は当行及び連結子会社の円建取引に基づく役務取引等であり、「国際業務部門」は当行の外貨建取引に基づく役務取引等であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況
預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	3,072,079	6,970	3,079,049
	当第3四半期連結会計期間	3,234,857	5,625	3,240,482
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	1,827,263		1,827,263
	当第3四半期連結会計期間	1,938,912		1,938,912
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	1,228,517		1,228,517
	当第3四半期連結会計期間	1,283,685		1,283,685
うちその他	前第3四半期連結会計期間	16,298	6,970	23,268
	当第3四半期連結会計期間	12,258	5,625	17,884
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	156,561		156,561
	当第3四半期連結会計期間	190,723		190,723
総合計	前第3四半期連結会計期間	3,228,641	6,970	3,235,611
	当第3四半期連結会計期間	3,425,580	5,625	3,431,205

- (注) 1. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
2. 定期性預金 = 定期預金
3. 国内業務部門は当行の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

貸出金残高の状況
業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	2,267,936	100.00	2,393,963	100.00
製造業	174,195	7.68	181,670	7.59
農業, 林業	45,925	2.03	46,549	1.94
漁業	10,771	0.48	11,412	0.48
鉱業, 採石業, 砂利採取業	2,244	0.10	2,185	0.09
建設業	71,322	3.14	68,837	2.87
電気・ガス・熱供給・水道業	41,382	1.82	55,563	2.32
情報通信業	25,647	1.13	21,086	0.88
運輸業, 郵便業	56,675	2.50	59,318	2.48
卸売業, 小売業	290,549	12.81	290,197	12.12
金融業, 保険業	58,718	2.59	66,469	2.78
不動産業, 物品賃貸業	204,859	9.03	219,250	9.16
各種サービス業	364,406	16.07	392,154	16.38
地方公共団体	366,573	16.16	374,074	15.63
その他	554,667	24.46	605,198	25.28
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
金融機関				
その他				
合計	2,267,936		2,393,963	

(注) 「国内」とは当行及び連結子会社であります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当行グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	210,403,655	210,403,655	東京証券取引所市場 第一部 福岡証券取引所	権利内容に何ら限定のない当 行における標準となる株式で あり、単元株式数は1,000株 であります。
計	210,403,655	210,403,655		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		210,403		18,130		11,204

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 549,000		権利内容に何ら限定のない 当行における標準となる株 式であり、単元株式数は 1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 208,724,000	208,724	同上
単元未満株式	普通株式 1,130,655		同上
発行済株式総数	210,403,655		
総株主の議決権		208,724	

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町 6番6号	549,000		549,000	0.26
計		549,000		549,000	0.26

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
現金預け金	88,936	80,695
コールローン及び買入手形	21,631	195,293
買入金銭債権	9,945	9,053
商品有価証券	181	163
金銭の信託	7,500	9,687
有価証券	1,160,444	1,149,038
貸出金	¹ 2,272,324	¹ 2,393,963
外国為替	1,358	2,811
リース債権及びリース投資資産	19,846	21,009
その他資産	¹ 25,651	¹ 27,570
有形固定資産	54,847	54,770
無形固定資産	8,590	7,113
繰延税金資産	611	564
支払承諾見返	26,153	28,420
貸倒引当金	31,218	32,354
資産の部合計	3,666,804	3,947,801
負債の部		
預金	3,144,798	3,240,482
譲渡性預金	68,867	190,723
コールマネー及び売渡手形	20,785	62,548
債券貸借取引受入担保金	32,745	9,555
借入金	44,185	81,278
外国為替	23	31
その他負債	22,940	23,181
役員賞与引当金	56	38
退職給付引当金	1,122	1,223
役員退職慰労引当金	868	607
睡眠預金払戻損失引当金	586	482
偶発損失引当金	240	240
繰延税金負債	8,309	7,647
再評価に係る繰延税金負債	8,312	8,257
支払承諾	26,153	28,420
負債の部合計	3,379,993	3,654,720
純資産の部		
資本金	18,130	18,130
資本剰余金	11,216	11,216
利益剰余金	197,702	204,754
自己株式	355	368
株主資本合計	226,694	233,732
その他有価証券評価差額金	35,656	34,437
繰延ヘッジ損益	295	240
土地再評価差額金	14,363	14,263
その他の包括利益累計額合計	49,724	48,460
少数株主持分	10,392	10,888
純資産の部合計	286,811	293,081

負債及び純資産の部合計	3,666,804	3,947,801
-------------	-----------	-----------

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
経常収益	59,204	61,383
資金運用収益	36,511	35,655
(うち貸出金利息)	28,581	27,787
(うち有価証券利息配当金)	7,787	7,594
役務取引等収益	8,544	8,807
その他業務収益	12,421	12,932
その他経常収益	¹ 1,726	¹ 3,987
経常費用	46,893	46,833
資金調達費用	1,712	1,628
(うち預金利息)	857	816
役務取引等費用	2,132	2,158
その他業務費用	8,212	9,600
営業経費	31,250	30,817
その他経常費用	² 3,584	² 2,627
経常利益	12,311	14,549
特別利益	1	12
固定資産処分益	1	12
特別損失	353	157
固定資産処分損	195	56
減損損失	158	100
税金等調整前四半期純利益	11,959	14,404
法人税、住民税及び事業税	4,919	5,040
法人税等調整額	106	49
法人税等合計	4,812	5,090
少数株主損益調整前四半期純利益	7,146	9,314
少数株主利益	399	473
四半期純利益	6,747	8,840

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,146	9,314
その他の包括利益	1,907	1,134
その他有価証券評価差額金	1,889	1,189
繰延ヘッジ損益	17	54
四半期包括利益	9,054	8,179
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,642	7,676
少数株主に係る四半期包括利益	412	503

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金等のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
破綻先債権額	5,000百万円	5,603百万円
延滞債権額	26,990百万円	24,518百万円
3カ月以上延滞債権額	- 百万円	57百万円
貸出条件緩和債権額	25,683百万円	26,274百万円
合計額	57,675百万円	56,452百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
株式等売却益	180百万円	2,343百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
貸倒引当金繰入額	1,410百万円	1,820百万円
株式等償却	1,054百万円	89百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	4,088百万円	3,917百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	839	4.00	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	944	4.50	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	944	4.50	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	944	4.50	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	49,221	8,791	58,012	1,192	59,204		59,204
セグメント間の内部 経常収益	182	890	1,073	402	1,475	1,475	
計	49,404	9,681	59,085	1,594	60,680	1,475	59,204
セグメント利益	11,262	553	11,816	534	12,350	39	12,311

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、主なものはクレジットカード業務及び債務保証業務であります。
 3. 調整額は、セグメント間取引消去であります。
 4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
減損損失	158		158		158

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	51,338	8,864	60,203	1,179	61,383		61,383
セグメント間の内部 経常収益	175	789	965	410	1,375	1,375	
計	51,514	9,653	61,168	1,589	62,758	1,375	61,383
セグメント利益	13,335	624	13,959	626	14,586	37	14,549

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、主なものはクレジットカード業務及び債務保証業務であります。
 3. 調整額は、セグメント間取引消去であります。
 4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
減損損失	100		100		100

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎

		前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	32.14	42.12
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	6,747	8,840
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	6,747	8,840
普通株式の期中平均株式数	千株	209,887	209,857

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成25年11月8日開催の取締役会において、第106期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	944百万円
1株当たりの中間配当金	4円50銭

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月5日

株式会社鹿児島銀行
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 畑 秀 二
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊 藤 次 男
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	荒 牧 秀 樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社鹿児島銀行の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社鹿児島銀行及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- () 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。